

楷

第六十六号

岡山大学
附属図書館報
OKAYAMA UNIVERSITY
LIBRARY BULLETIN

KAI
No.66
2018
FEBRUARY



<写真>

のぶの木

山中ニ生ス高サ一ニ二間葉棟葉ノ形色ニ似タリ
花白ク栗ノ花ノ如ク実松カサノ如ニシテ
松カサヨリ小クシテヤハラカナリ

「備前国備中国之内領内産物絵図帳」（岡山大学附属図書館所蔵池田家文庫より）

— 目 次 —

- 附属図書館、その存在意義の変遷（附属図書館副館長 木村吉伸）…………… p.2
- 岡山大学におけるオープンアクセスの状況について
（附属図書館基盤グループ 大園隼彦）…………… p.6
- マスカット…………… p.10
岡山市文化奨励賞の受賞について、池田家文庫絵図展報告、
学生・館長懇談会報告 ほか
- 会議・研修・編集委員から…………… p.16

附属図書館、その存在意義の変遷

木村 吉伸

1. はじめに

平成29年度から附属図書館 副館長として図書館業務に関わらせて頂いております。この20年程の間、年々図書館へ足を運ぶ機会が少なくなっておりましたが、僅かばかりとはいえ管理運営に携わることとなり、昨年からは図書館を訪れる機会が再び増え始めました。2年程前、改修後の附属図書館に足を踏み入れた時には、岡山大学に赴任した30年前の館内と様相が一変しており、大変驚きました。津島キャンパス界限で日々の大半を過ごしていますから、化粧直した図書館の外観は毎日のように目にしておりましたし、銀杏や楓の季節変化に映える夕暮れ時の時計台遠景を讚える声も時折耳にしておりました。

しかしながら、冒頭で述べました様に図書館内に足を運ぶことは年々減ってきて、新装図書館に足を踏み入れたのも比較的最近のことでした。これは、少なくとも私にとって、附属図書館のレゾンデートルがこの20年で大きく様変わりしたことを意味するように思います。この度、副館長として「楳」への寄稿を依頼されましたので、この機会に大学附属図書館のレゾンデートルの変遷と将来像について感じることを、個人的偏見も交えつつ述べさせていただきます。

2. 駆け出し理系教員にとっての附属図書館のレゾンデートル：バブル期前後

30年以上前の大学院生時代、理系学部では洋の東西を問わず何処でも同じだと思いましたが（理系学部に限ったことではないだろうと承知の上ではあるが）、論文紹介や実験報告等の研究室セミナーが頻繁に開催されるため、研究テーマに関する幾つかの論文を図書館で探さなくてはなりません。ケミカルアブストラクトやカレントコンテンツなどを横にして、毎月数日は半日近くを図書館で過ごすことになるのですが、目当ての論文を探して雑誌を捲っているうちに、思ってもみなかった面白い論文に出くわす楽しみも多々あり、そういった論文が博士論文研究の助けやヒントになりました。このような予期せぬ巡り逢いが図書館で静かな時間を過ごす楽しみでもあり、図書館の小さくも意義深いレゾンデートルの一つであったかと思えます。在籍していた大学の附属図書館はライフサイエンス系の雑誌も比較的揃っていたので、キャンパス内の附属図書館である程度事足りていました。30年前、岡山大学に助手（助教）として赴任した直後に、研究室の教授が図書館を案内してくれました。当時も重厚感のある図書館でしたし、少々薄暗い閲覧室で数名の若手教員が科学雑誌に目を通しておられる姿に、大学の附属図書館はどれも同じなのだと思える妙な安心感を覚えたものです。

しかしながら、80年代後半は、中央図書館に配架されているライフサイエンス系の雑誌はそれ程多くなかったように思います。それでも幸いなことに、鹿田分館には必要なライフサイエンス系の雑誌が揃っていたので、1~2ヶ月に一度は研究室の学生も連れて、鹿田キャンパスを

訪れていたものです。勿論、中央図書館や鹿田分館にも配架されていない雑誌も多々ありましたが、著者に論文請求の葉書を出せば一ヶ月もすれば論文が届きましたので、それが当たり前だと思っていました。大学教員に流れる時間も比較的ゆったりしていたのかも知れません。こうして振り返りますと、駆け出し理系教員や大学院生にとって附属図書館は、存在意義など改めて考える余地もない、研究室から抜け出して研究に必要な論文を収集し、ざっと目を通し、そしてひととき考えにふけるための必要不可欠な場所でした。もっとも、多くの学生諸君にとっては、講義レポート作成や試験勉強の為に蔵されている教科書や参考図書を利用するという、伝統的な図書館の基本的機能は当時も今も変わっていないと思います。

3. デジタルメディア時代の附属図書館のレゾンデートル凋落と深刻な問題

改めて言うまでもなく、デジタルメディアの一般化により論文検索は容易になり、図書館に赴くまでもなく研究室のパソコンの前で、手軽に広範囲にそして瞬時にターゲットとする論文が手に入るようになりました。そして、数年ほど前迄は、かなり多くの雑誌から論文を無料でダウンロードすることができていましたので、研究関連の情報収集には以前ほど時間をかける必要がないという意識が刷り込まれてしまいました。それはそれで極めて意義深い進歩で、論文執筆や研究テーマを考える上でも、デジタルメディアの勃興が教育研究活動に多大な貢献を果たしたことは間違いありません。その半面、教員の足を附属図書館から遠ざけてしまったことも事実でしょう（私もその一人でしたから）。そう言った意味で、若手教員や大学院生にとっては、図書館がこれまでのレゾンデートルの全てではなくとも比較的大きな部分を失ったとも言えます。もっとも、研究室で手軽に読める電子ジャーナルとはいえ、電子ジャーナル購入や選定に関わる業務は附属図書館が所掌しているので、図書館機能そのものに空虚な穴が開いたわけではありません。

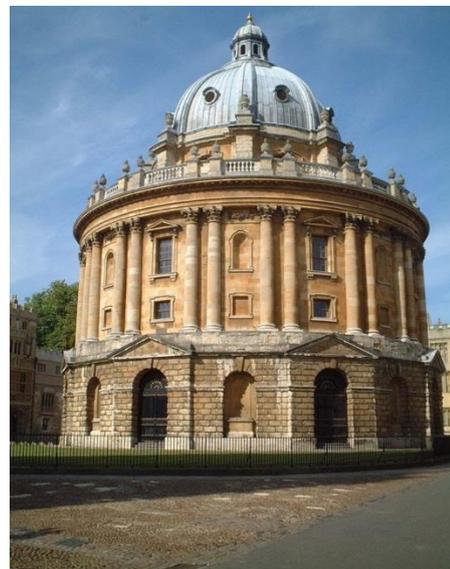
ところが、この数年の間に、便利だったはずの電子ジャーナルに深刻な問題が顕在化して来ました。多くの教員や大学院生もその影響を既に実感されているかと思いますが、出版社側の巧みなパッケージ戦略によって電子ジャーナルが高騰して、これまでの購入雑誌数を維持できなくなりました。このことは、これまで読めていた雑誌が突然読めなくなるだけでなく、冊子体での購入ではないため、過去にさかのぼっての論文も読めなくなる場合があります。勿論、大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)もただ手を拱いて出版社の言いなりになっている訳ではなく、コンソーシアムとして絶えず出版社との交渉や申し入れを積極的に行っており、教育研究活動へ深刻な被害が及ばないような取組を行っています。一方、岡山大学附属図書館としても、電子ジャーナル等選定ワーキンググループを立ち上げ、限られた予算で効果的な雑誌購入システムを構築しています。昨年度まで副館長を務められた五福前委員長と委員の先生方のご努力によって被害を最小限に留める策が講じられ、ベストではなくともベターな状況に落ち着いています。しかし、年々、電子ジャーナルの価格は高騰して行きますので、あと数年もすれば新たな策を講じる必要が必ず出てきます。この電子ジャーナル問題にどのように取組み、大学の教育研究活動を担保していくかという超難問の解決に対して、図らずも図書館のレゾンデートルが問われる時代となりました。この場をお借りして教職員の方々のお知恵とご協力をお願い申し上げます。

4. 情報収集の場からイノベーションを促進する場へのレゾナードール変遷

昨秋、NHK「実践ビジネス英語」を聞いておりましたらビニエツトに図書館の話題が出てきました²³⁾。それによると、アメリカでも予算削減やデジタルメディアが図書館にも打撃を与えて、こういった施設の消滅が危惧されていたそうです。しかしながら、図書館がイノベーションを促進する場という新たな役割を見いだすことで、未来の図書館は体験型で、地域社会に根ざした施設へとレゾナードールを変えて行くと言われているそうです。大学図書館も学生のニーズに対応する形で本の保管スペースを減らし、飲食規制を緩和することで、個人的学修の場以外にも共同作業や交流のスペースを増やしているとのこと。その基本理念は、図書館がよそよそしくて近づきがたい施設ではなく、快適で心地よい場所になることだそうです。もっともこのビニエツト、個人的には岡山大学の附属図書館の現状を聞いているようにも感じました。ラーニング コモンズ、サルトフロresta、グループ学修室等々が既に出来上がっている附属図書館を眺めると、学生、教員のみならず市井の方々も利用している景色が広がっています。ここ津島キャンパスには、体験型で地域社会に根付いている大学図書館が未来ではなく既に現存しており、これまでに18回を数える「知好楽セミナー」では、学生、教職員に留まらず地域の方々にも多く参加頂き、まさに地域に根ざした「知」と「心」を育む交流と教育が行われています。岡大附属図書館は、図書、論文あるいはインターネットから情報を集めるだけではない、いわゆるアクティブ ラーニングの場としても機能進化を遂げていることが分かります。

5. おわりに

15年ほど前、オックスフォード大学に在外研究員として赴いていたとき、図書館について大変面白い経験をしました。アメリカに留学していたときは研究所だったため、同じ図書館といっても自ずと意義の違いを如実に感じました。多くの方がご存知のように、オックスフォード大学には重厚で壮麗なボドリアン図書館があります。ハリー ポッターの撮影でも使われたことでも知られており、数百年の伝統を誇る威厳漂う図書館です。その一つにラドクリフカメラと呼ばれる丸屋根の建物が、芝生の中に赤茶けた姿で佇立しています。古色蒼然を愛するオクソニアン達ですから、外観はほぼ当時18世紀半ばのままなのでしょう。中もさぞかしと思って入ってみますと、確かに長い年月の間に改修を重ねているとはいえ、インターネットは当たり前のように完備されていて、理系学生達が色々と調べものやレポート(論文)書きをする世界共通



オックスフォード大学 ラドクリフカメラ
理系学生が利用する図書館 (2002年秋撮影)

のお馴染みの情景を垣間見ることができました。オックスフォード大学の学生達はそれぞれのカレッジに所属しているので、そこにあるコモンズ ルームで教員や仲間達と軽食や珈琲を交えて図書館で収集した情報や論文(だけではないだろうが)について語り合うようです。ちょっ

とした思いつきやアイデアは、少し温めた後で、人を相手に説明することで明確な輪郭を取ったり深化したりするものですから、オックスフォード大学の学生は日常的にそういった訓練を意識せずに重ねているのだと感心しました。今では、なにもオックスフォード大学に行くまでもなく、岡山大学附属図書館にもラーニング コモンズが設置されていて、図書館を訪れる度に、話を弾ませている学生諸君の活気ある姿を目にします。大学図書館は最早情報を収集する場としての機能ではなく、得た情報や自分の考えを仲間や異分野の人間との雑談や議論を通してブラッシュアップする場所としてのレゾンデートルを持ち始めているように感じます。

最近、図書館に足を踏み入れていない教員の方々、図書館を一度も訪れたことがない学生諸君も、是非、附属図書館が催すセミナー、講習会あるいは貴重資料の展示会等に参加してみてください。それぞれのテイストに見合った図書館のレゾンデートルがきっと見つかることと思います。そして、それらの発見と教育へのアプリケーションが附属図書館の進化に大きく寄与してくれるものと信じております。

注) NHK ラジオ 実践ビジネス英語 Networking Conversations. November 2017

(きむら・よしのぶ 附属図書館副館長)

岡山大学における オープンアクセスの状況について

大園 隼彦

1. オープンアクセスの状況

学術論文のオープンアクセス (OA) が話題になって久しい。2002年、ブダペスト・オープンアクセス・イニシアチブ (BOAI) において「学術文献がインターネット上において無料で利用可能であり、(中略)財政的、法的また技術的障壁なしに、誰にでも許可されることを意味する。」と定義されて¹から15年が経過した。その間、研究者が学術論文の著者最終原稿 (Accepted Author Manuscript: AAM) を、所属機関の研究成果のアーカイブである機関リポジトリ等に登録することでOAを実現する Green OA と、論文投稿の際に Article Processing Charge (APC) を負担し出版社のプラットフォームでOAにする Gold OA が登場した。OA論文の数は着実に増加しており、英国大学協会の調査による²と、出版後12ヶ月以内にOAで公開された世界の論文の割合は、2012年の25%から2016年の32%へと増加しており、また Piwowar らの調査による³と、CrossRef の DOI を持つ論文の約28%、Web of Science (WoS) 収録論文の約36%、OA論文の利用をサポートする Unpaywall でアクセスした論文の約47%がOAであった。2017年10月31日の第9期研究費部会 (第4回) の資料による⁴と、2013年に日本人研究者が関与したOA論文の数は約11,000報で5年前の2倍に増加し、科研費が関係したOA論文の割合は50%を超えている。このように世界的にも国内の状況を見てもOA論文の数は年々増加していることがわかる。

2. 岡山大学のOA論文

それでは岡山大学におけるOAの状況はどうなっているのだろうか。WoSから抽出した岡山大学における直近10年の研究成果のOA状況を図1に示す。グラフから分かるとおり、この間、WoS収録誌における岡山大学の学術論文の数は、若干の増減はあるものの約1,800報前後で推移しているが、OA論文の占める割合は2007年の約23%から2016年の約37%へと大幅に増加していることが分かる。OA論文数が増加していること背景としては、OA論文を出版するOAジャーナルの増加と、そのImpact Factor (IF) が高い水準にあるものが増えたことが考えられる。



図1 直近10年間の岡山大学の研究成果のOA論文の数と割合

OAジャーナルのディレクトリである Directory of Open Access Repositories⁵によると、2017年時点でOAジャーナルの数は約11,000誌まで増加している。IFは雑誌に掲載された論文の平均引用数を表しており、研究者が投稿するジャーナルを選択する際の判断材料の一つとなる。一般的にはIFが高い雑誌ほどその分野で影響力が高く、論文の投稿先として選択されやすい傾向がある。例えば、OAジャーナルである *Living Reviews in Relativity* の2016年のIFは29.3であり、その分野において高い水準を維持している。

3. OAのメリット

OA論文の影響度を調査した1Science社とScience-Metrix社による⁶と、OA論文の方が非OA論文よりも被引用数が多い傾向があることが分かった。同レポートは、2007～2009年にWoSにインデクスされた約330万論文を対象に、そのOA状況と被引用数の関係を調査し、OA論文の相対的被引用数は非OA論文よりも平均して約1.5倍高いことを示した。この調査では、OAをさらにGreen OAとGold OAに区別して調査しており、22分野中20分野でGreen OAの方がGold OAよりも引用数の増加に効果があったことを示している。つまり、電子ジャーナルのプラットフォームに加えて、機関リポジトリにAAMを登録しOAを実現することは、論文にアクセスするための新しい経路を増やすことにもなり、インパクトを最大化する戦略として優れているといえる。OA論文の被引用数が高いことについては、プレプリントサーバで早期公開されることで引用期間が長くなるためという指摘もあるが、同レポートは出版直後の論文はエンバーゴによりOAになっていないケースが多く、純粋にOAであることがインパクトの増加に良い影響をもたらす傾向があることを示している。

WoSを利用して作成した岡山大学の直近10年間の研究成果の引用状況を図2に示す。グラフから岡山大学においてもOA論文の方が非OA論文よりも一貫して平均被引用数が高いこと

がわかる。

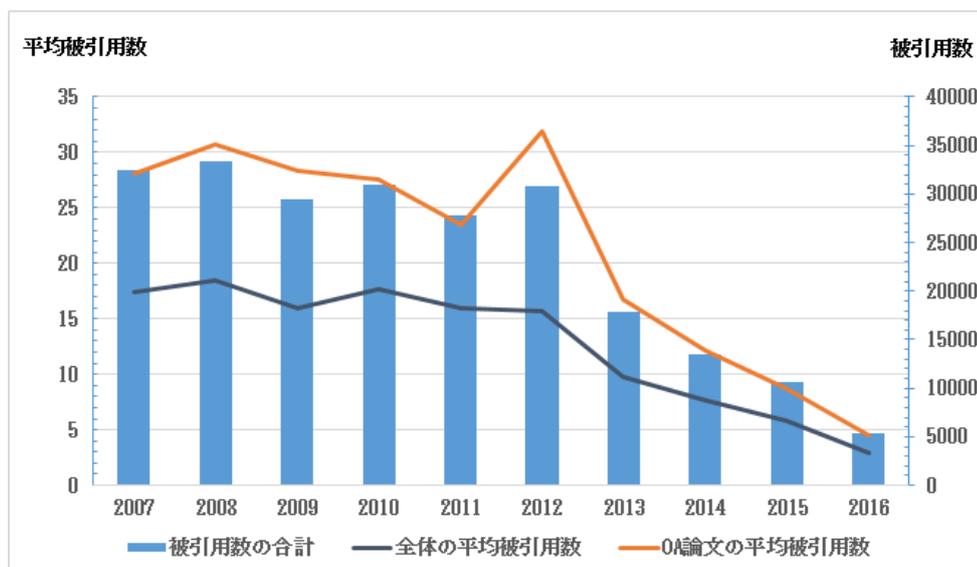


図2 直近10年間の岡山大学の研究成果の引用状況

4. 岡山大学の研究情報管理

附属図書館では岡山大学の研究成果を保存・公開する『岡山大学学術成果リポジトリ (Okayama University Scientific Achievement Repository: OUSAR)』⁷を運用しており、約37,400件のコンテンツが登録されている。一方で、WoSのデータを見ると、直近10年の岡山大学のOA論文は93%がGold OAであり、機関リポジトリに登録するGreen OAは少ないことが分かる。OUSARのコンテンツの中心は学内の紀要論文であり(約70%)、機関リポジトリを活用した学術雑誌論文のGreen OA化は現状ではあまり進んでいないといえる。

上述の通り、機関リポジトリを利用してGreen OAを進めることは被引用数に良い影響をもたらす傾向があるので、本学の研究者は是非OUSARにAAMを登録してOA化を進めていただきたい。OUSARへの登録は簡単であり、附属図書館の専用のメールアドレス(libcat@adm.okayama-u.ac.jp)宛に、DOI等の論文を識別する情報と合わせてAAMを添付して送付するだけでよい。OUSARは『岡山大学研究者総覧⁸』とも連携しているので、研究者総覧に研究成果情報を登録する際にOUSARにAAMを登録することも可能である。

海外の状況を見るとOA普及の主要な要因の一つとして研究資金助成団体によるOAの義務化があげられる。国内でも日本学術振興会が2017年3月に科研費による研究成果については原則OAとする方針を示して⁹おり、今後OA化の動きはいつそう進むと思われる。一方で、研究機関としては、機関の研究成果を一元的に管理することが重要である。欧米では研究情報管理(Research Information Management: RIM)と呼ばれ、エルゼビア社のPureをはじめ様々な専用システムが登場している。岡山大学においても前述の岡山大学研究者総覧や『岡山大学Pure¹⁰』で研究情報を管理している。RIMは研究活動にかかわる様々な情報を収集し、OUSARは研究成果のコンテンツを収集するという違いはあるが、機関の研究に関わる情報を管理するという方向性は同じである。研究成果のOA化を考えた場合、電子ジャーナルを購読する従来のモデルと平行して、APCを負担するGold OAモデルに舵を切るには財政的にかなり厳しい

と思われる。現状としては **Green OA** を進めることが効率的かつ効果的であろう。その際には、学内の類似サービスを相互に連携し、研究者及び情報管理担当者の労力を減らすことも重要になる。附属図書館としては学内の関連部署との連携を図りながら、研究成果の一層の OA 化を進める必要があると考えている。

今回のデータは **WoS** をベースにしているので日本語の論文は対象外であること、また平均被引用数については総合的な値であり個々の論文の引用数を予測するものではないことに注意が必要である。

参考文献

- 1 <http://www.budapestopenaccessinitiative.org/boai-10-translations/japanese-translation-1> (アクセス日：2018/2/19)
- 2 <http://www.universitiesuk.ac.uk/policy-and-analysis/reports/Documents/2017/monitoring-transition-open-access-2017.pdf> (アクセス日：2018/2/19)
- 3 <https://doi.org/10.7717/peerj.4375> (アクセス日：2018/2/19)
- 4 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/041/shiryo/1398190.htm (アクセス日：2018/2/19)
- 5 <https://doaj.org/> (アクセス日：2018/2/19)
- 6 <https://digitalcommons.unl.edu/cgi/viewcontent.cgi?article=1028&context=scholcom> (アクセス日：2018/2/19)
- 7 <http://ousar.lib.okayama-u.ac.jp> (アクセス日：2018/2/19)
- 8 <http://soran.cc.okayama-u.ac.jp/search?m=home&l=ja> (アクセス日：2018/2/19)
- 9 https://www.jsps.go.jp/data/Open_access.pdf (アクセス日：2018/2/19)
- 10 <https://okayama.pure.elsevier.com/> (アクセス日：2018/2/19)

(おおぞの・はやひこ 附属図書館基盤グループ)

マスカット

岡山市文化奨励賞の受賞について

毎年開催している池田家文庫絵図展により、平成 29 年度の岡山市文化奨励賞（学術部門）を受賞しました。平成 29 年 11 月 21 日（火）に岡山市役所で表彰式があり、今津館長と大元事務部長が出席。賞状と賞牌、賞金 10 万円を贈られました。平成 17 年の岡山市との文化事業協力協定締結を契機に岡山デジタルミュージアム（現岡山シティミュージアム）に場所を移して開催を始め、以来十数年継続してきました。江戸時代の岡山・日本についての多岐にわたる内容と長期間の継続開催が評価されました。今後も池田家文庫を通しての社会貢献を続けていきたいと考えています。

池田家文庫絵図展報告

平成 29 年 11 月 3 日（金・祝）～11 月 19 日（日）に岡山シティミュージアムを会場に池田家文庫絵図展「池田光政と絵図」を開催しました。11 月 12 日（日）には本学大学院社会文化科学研究科の三宅正浩准教授による講演「池田光政の時代」を開催（参加者 110 名）し、延べ 2,168 人の方にご来場いただきました。今回は岡山県立博物館のキャラクター、「光政くん」を起用し、平易な言葉でわかりやすい解説をキャプションとしてつけ、好評を博しました（光政くんキャプションは上記三宅准教授が担当）。



学生・館長懇談会報告

中央図書館では、平成 29 年 12 月 13 日（水）に、文学部、法学部、経済学部、教育学部、社会文化科学研究科、教育学研究科所属の学生 10 名の参加を得て、今年度 2 回目の学生館長懇談会を開催しました。懇談会は、学生の皆さんに図書館への要望を直接伺う場を設け、図書館サービスを充実させるために実施しているもので、毎年 2 回実施しています。

この度の懇談会では、学生の皆さんからは実際に利用する上で感じていることを伺い、蔵書充実や試験期間の座席不足解消について改善の要望などを出していただきました。懇談会終了後、学生の皆さんからの意見を参考に、サービス改善に取り組んでおります。図書館では、今後も懇談会での貴重な意見をもとによりよいサービス実施に役立てていきたいと考えます。

平日早朝開館実施報告（中央図書館）

昨年度に引き続き、今年度も早朝開館は、授業期間平日（4月10日～8月8日、10月2日～2月13日）に対象期間を拡大して実施しております。

実施した163日間で、繰上げを行った時間帯（8時00分～8時40分）の入館者は9,021人となり、多くの皆様にご利用いただきました。来年度から授業期平日開館を8時に変更します。

ブックハンティング実施報告

ブックハンティングは、学生の皆さんが書店に向き、図書館の蔵書に相応しいと思う本を選ぶイベントです。

中央図書館のブックハンティングは、平成29年10月25日（水）の午後に、丸善岡山シンフォニービル店で開催しました。9名の方にご参加いただき、149冊の本を選んでいただきました。

資源植物科学研究所分館では、平成29年10月19日（木）に、丸善岡山シンフォニービル店で開催しました。5名（学生3名、教職員2名）の方にご参加いただき、30冊の本を選んでいただきました。



中央図書館ミニ展示報告

中央図書館本館1Fロビー、本館1Fラーニングcommons内の展示スペースで、当館資料を紹介する「ミニ展示」を実施しています。ぜひご覧ください。平成29年8月～平成30年2月は下記テーマで実施しました。

- 8月～9月 「貸出ゼロ本」
- 10月 「ノーベル賞特集」
- 11～12月 「請求記号700の本特集」
- 1～2月 「さまざまなセクシュアルマイノリティについて、知る。考える。」
企画展（学生相談室主催）



サルトフロresta展示報告

中央図書館本館2階のサルトフロrestaでは各種の展示を行っています。サルトフロresta内イチョウエリアでは学内の研究成果を発表するポスター展示を実施しています。

また、同じくクスノキエリアの展示スペースでは、学内の資源を使った様々な展示を行っています。対象期間中の展示分は以下の通りです。

- ・「岡山のハレの献立」

実施期間：平成29年10月25日（水）～平成30年1月19日（金）

展示内容：県内博物館等との連携展示。池田家文庫・地方資料から「食」に関する資料を展示。婚礼や賓客を迎えた時など、改まった席での献立を集めて展示しました。

- ・「うつす・むすぶ」（文学部学芸員課程企画展）

実施期間：平成29年12月7日（木）～12月19日（火）

実施内容：「鏡の世界」「日本のお守りコレクション」

- ・「池田家と大坂の陣」

実施期間：平成30年1月24日（水）～

展示内容：以前に実施した岡山県立博物館・林原美術館との連携展示の再展示。

○「池田輝政 西国の将軍と呼ばれた男」

※岡山大安寺中等教育学校図書室への出張展示。10月16日（月）には当館職員が現地で展示解説を実施。

実施期間：平成29年9月20日（水）～11月20日（月）

展示内容：晩年には中国地方で一族合わせて100万石近い所領を得ていた池田輝政について、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康といった天下人からの書状により紹介した展示。



「岡山のハレの献立」



「池田輝政 西国の将軍と呼ばれた男」

知好楽セミナー報告

図書館では、グローバル化時代を生き抜くための「知」と「心」を育む交流をコンセプトとした独自企画「知好楽セミナー」を実施しています。

第16回「全国大学ビブリオバトル2017～首都決戦～ 予選会 in 岡山大学附属図書館」

日時：平成29年10月11日（水）14：30～15：30

場所：中央図書館 本館1F ラーニングコモンズ

共催：岡山大学生協同組合

参加学生（バトラー、司会者）：6名

参加者（観客）：20名

4名のバトラーが予選会突破をめざし、熱い戦いを繰り広げました。観客からは、楽しかった、紹介された本を読んでみたくなったなどの、多くの声をいただきました。

第17回「International Book Day 附属図書館×L-café」

日時：平成29年12月6日（水）14：00～15：30

場所：中央図書館 本館1F ラーニングコモンズ

共催：岡山大学L-café

参加留学生（発表者、司会者）：5名

参加者（観客）：27名

アメリカ、イギリス、中国、韓国からの留学生に、それぞれのおすすめ本を紹介していただきました。多彩な本の世界に引き込まれ、終了後も、観客との交流が続きました。

第18回「やさい食堂こやま in Okadai Library 2」

日時：平成30年1月17日（水）14：40～16：00

場所：中央図書館 本館1F ラーニングコモンズ

講師：小山津希枝氏（「やさい食堂こやま」オーナー）

参加者：39名

昨年のご講演をいただいた小山津希枝氏による食の話、第二弾です。昨年を上回るご参加をいただき、大盛況のうちに終わりました。

平成29年度「池田家文庫こども向け岡山後楽園発見ワークショップ」（冬）実施報告

平成30年2月18日（日）に附属図書館と教育学部の共催による「池田家文庫こども向け岡山後楽園発見ワークショップ」を岡山後楽園で開催し、23名（小学生11名、同行者12名）の方にご参加いただきました。

参加者は附属図書館所蔵の後楽園の昔の絵図（複製）を手に園内を回り、絵図に描かれた各時代の後楽園と現在の後楽園を見比べながら、後楽園の移り変わりを発見しました。最後のまとめでは子どもの視点ならではの発見の発表もあり、普段とは違った視点から後楽園に親しむ機会となりました。

ワンポイントセミナー「大学生のためのレポートの書き方術」実施報告

図書館では、レポートや論文の書き方といったアカデミックライティングの支援に取り組んでおり、その一環として「大学生のためのレポートの書き方術」を開催いたしました。

日時：平成30年1月31日（水）14：00～14：45

場所：中央図書館 本館 1F ラーニングcommons

講師：岡山大学附属図書館 利用者支援グループ 水内 勇太

今回のセミナーでは、レポートとはどういうものかといったレポート作成の前段階の話から、レポート作成の流れ、テーマ設定・情報収集、執筆まで、一通りの解説をしました。当日は27名の参加があり、受講後のアンケートでもご好評をいただきました。

岡山大学附属図書館では来年度以降もライティングサポートに取り組んでいく予定ですのでよろしくお願ひします。

オリエンテーション・データベース講習会実施報告

○中央図書館

中央図書館では平成29年10月～12月、平成30年1月にオリエンテーション等を実施し、延べ171名の方にご参加いただきました。

オリエンテーション、ツアー

実施日	対象	参加人数
10月4日	放送大学学生	3
10月18日	ディスカバリープログラム新入生	31
10月18日	新入生ツアー	5

ガイダンス

実施日	講習会名	参加人数
10月6日、17日、24日、 26日、11月2日	図書館・文献検索ガイダンス (教員の依頼により授業・ゼミ等で実施)	58
11月8日	レポートテーマ設定支援講座	11
11月8日、10日	先行研究・関連情報探索講座	16

データベース講習会

実施日	データベース名	参加人数
12月13日、18日	Web of Science	13
12月20日	JDreamIII	1
1月26日	EndNote basic	33

○鹿田分館

鹿田分館では平成29年10月～11月、平成30年1月～2月に講習会を開催し、延べ68名の方にご参加いただきました。

講習会

実施日	講習会名	参加人数
10月18日	医中誌 Web	14
11月9日	EBMR	2
11月13日	文献入手講座	3
11月20日	UpToDate 利用案内+登録会	25
11月20日	UpToDate	10
1月26日	EndNote basic	3
2月7日	医中誌 Web	11

教員からの寄贈図書リスト

次の方々から著書をご寄贈いただきました。ありがとうございました。

<中央図書館>

赤江剛夫 [環境生命科学研究科]

乾燥地灌漑農地における塩類化リスク地域の同定と持続的最適用水配分 (科学研究費補助金(基盤研究(B))研究成果報告書:平成22-24年度)——赤江剛夫, 2014.3 (F377.7/24-A)

乾燥地農業地域における砂丘地の水循環と水資源評価 (科学研究費補助金(基盤研究(B))研究成果報告書:平成26-28年度)——赤江剛夫, 2017.3 (F377.7/28-A)

藤井浩樹 [教育学研究科]

ようこそアマモ村へ——海と日本 PROJECT in 岡山実行委員会, 2017.12 (726.6/H)

岡山大学出版会からの寄贈図書リスト

岡山大学生殖補助医療学教科書作成委員会編

生殖補助医療技術学入門——岡山大学出版会, 2017.9 (495.48/S)

岡山大学附属図書館教育・研究支援ワーキンググループ編

大学生のための伝わる情報発信術：レポート作成からプレゼンまで——岡山大学出版会, 2017.8 (816.5/D)

竹内和夫 [名誉教授]

ニホン語・トルコ語・アルタイ語研究——岡山大学出版会, 2018.1 (829.57/T)

山本宏子 [教育学研究科]

楽器をうたおう：唱歌で学ぶ演奏入門——岡山大学出版会, 2017.10 (F760.7/Y)

会議

◆学外

- 29.11.9 第3回岡山県大学図書館協議会研修委員会
(於：新見公立大学)
- 29.11.16 平成29年度国立大学図書館協会中国四国
地区実務者会議 (於：広島大学)
- 29.11.16 第53回日本医学図書館協会中国四国地区
～17 総会 (於：島根大学)
- 29.12.1 平成29年度中国四国地区国立大学図書館所管部
課長会議 (於：岡山大学)
- 30.1.18 第4回岡山県大学図書館協議会研修委員会
(於：岡山商科大学)
- 30.2.21 国立大学図書館協会中国四国地区協会事業委員
会総会 (於：岡山大学)

◆学内

- 29.10.17 平成29年度第1回岡山大学出版会運営委
員会
- 29.12.13 平成29年度第2回岡山大学出版会運営委
員会
- 30.2.22 平成29年度第2回岡山大学附属図書館
運営委員会

研修

- ・平成29年度大学図書館職員短期研修
参加者 羽田 まどか (10.3～6)
- ・第58回中国四国地区大学図書館研究集会
参加者 久磨 由美子 (10.19～20)
- ・平成29年度中国・四国地区国立大学法人等
財務会計事務研修 (初級編)
参加者 難波 麻紀、中山 千佳子、
岩佐 美紀 (11.8～10)
- ・平成29年度国立大学法人岡山大学中堅職員研修
参加者 岩佐 美紀 (11.16)
- ・男女共同参画に関する管理職セミナー
参加者 今津 勝紀、李 禎之、大元 利彦、
田中 俊二 (11.21)
- ・文献検索演習中級2017
参加者 藤井 香子 (12.4)
- ・平成29年度岡山県大学図書館協議会研修会
参加者 田中 俊二、水内 勇太、
羽田 まどか、下田 悠佳 (2.5)

編集委員から

立春を過ぎても、まだ寒い日が続いていますね。学生のみなさんは、春休みをどのように過ごしているのでしょうか。さて、図書館では1月に「大学生のためのレポートの書き方術」と題したワンポイントセミナーを開催し、好評でした。図書館は情報収集や学修のための資料や環境が充実しています。春休み中も新学期になってからも、ぜひ図書館をご活用ください。

また、本号にも記載している通り、中央図書館では定期的に企画展示を行っております。図書館にお越しの際は、そちらもぜひご覧ください。(C.N.)

岡山大学附属図書館報「楷」 No.66 平成30年2月28日
発行人 大元利彦 編集 広報ワーキング
岡山大学附属図書館発行 〒700-8530 岡山市北区津島中三丁目1-1
ホームページ URL <http://www.lib.okayama-u.ac.jp/>